

# 臨床心理士・公認心理師試験対策授業

留学生教育センター 特任講師  
修士（経済学） 松尾仁

臨床心理士・公認心理師試験対策授業にて、中島総長先生による授業担当教員と学生への指導を見学し、中島総長先生の教育メソッドを学んだ。

「試験に合格したい」と、誰しもが思うことであろう。

しかし、なかなか合格しないというのが実情である。なぜなら、学生は学習方法がわからないため、成績が伸びない。そこで、受験生はなんとか合格したいと思い学校に通うのである。教師はそれを手助けするのが仕事である。その手助け、つまり教え方は適切なのであろうか。

確かに、教師は教え方を工夫しているつもりでも専門知識ばかりを教えているのかもしれない。そこで、中島総長先生は「それがダメだ」と指摘していた。そして、「目的はなにか」「生徒が受かるように教える」という授業の目的を明確にしていた。

記号選択・穴埋め問題は、次のような指導法が適切であるとのことであった。まず、「問題文を読ませる」、すぐに「解答の解説を読ませる」、そして「選択肢を読ませる」、「解説を読ませる」、または「空欄を埋めた文章を読ませる」ことを学生に行わせ、その問題文・選択肢、解説文を暗記させる。

試験対策の授業では、いろいろな解説は必要なく、徹底的に過去問を暗記させる。「先生が疲れる教え方はダメ」だが、「生徒は頭を使うから疲れる」という対局の関係を示され、「教員は司会をやっていればいい」と教師の役割を説明しておられた。

授業最後の確認テストで、学生全員が満点を取ったことから、中島総長先生の教育メソッドは効果的であると実感できた。

中島総長先生は、学生たちに「家に帰って復習。記憶は繰り返し、帰りの電車の中、食事の前、明日の朝も復習」と復習について強調されていた。

さらに中島総長先生は、学生のメンタル面を気遣っておられた。「全員が合格しても不思議ではない。このルートに乗ってやれば合格できる。みなさん、受かってください。学校は受かるように手助けをする。東京福祉大学のやり方についてきてください」と励ましていた。そして「これで受かったら、いい疲れになる。いい疲れになってください」と学生たちに希望を持たせていた。

ひたすら過去問を暗記するのは一人ではできないが、学校に集まり、教師が司会をしてくれればできると思った。これを学生にやらせるために学校は存在しているのかもしれない。そして、教師の学生への気遣いも学習指導同様に重要なものであると気づくことができた。

このような効果的な教育メソッドを学ぶことができたため、充実した授業見学であった。